

NEWS **絆**

東北生産性本部

「今、世界で日本で何が起きているのか」

## 2024年度 仙台シンポジウム 8月例会開催

2024年度 仙台シンポジウム8月例会は、国際ジャーナリスト モーリー・ロバートソン氏 を講師にお迎えし、約60名の参加を得て開催いたしました

## ■例会（2024年8月29日開催）

講師：国際ジャーナリスト モーリー・ロバートソン 氏

（プロフィールなど）

広島を始め、日米双方の教育を受け富山県高岡高校卒業したのち、1981年に東京大学とハーバード大学に現役で同時合格する。日本語で受験したアメリカ人としてはおそらく初めての合格者。

東京大学、ハーバード大学に加え、MIT、スタンフォード大学、UCバークレー、プリンストン大学、エール大学にも同時合格。

東京大学を1学期で退学し、ハーバード大学に入学。電子音楽とアニメーションを専攻。アナログ・シンセサイザーの世界的な権威に師事し、1988年ハーバード大学を卒業。

## 【ご講演要旨】

「今、世界で日本で何が起きているのかー」

日経平均株価が急激な変化(ボラティリティ)となったその背景や投資家心理などユーモアを交えながら説明いただきました。



また、日本とドイツのZ世代と言われる若者の政治への関心の違いには、選挙活動でユーチューブなどの動画配信で感情に直接訴えかけたことで、若い候補者でも当選を果たしている。動画配信による直情的なメッセージを受ける機会が増えたことで、右に左に動きやすい、言わばボラティリティが上がっているとも言える。

一方アメリカ大統領選の行方は、国民の関心事として、

「経済」が最も高く、次に「政治的な過激主義、民主主義への脅威」、次に「移民問題」の順となっているが、若者の有権者(就職前)は、「環境(気候)問題」、「人権(差別、性的マイノリティ)」を優先させており、



年齢層によってトランプ、ハリスの選挙の優位が異なることを世界情勢や国内情勢の背景と共に、分かりやすく説明いただきました。

以上、大変有意義なご講演ありがとうございました。